

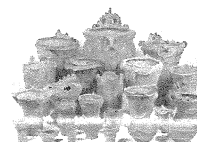
博物館研究

vol.55 No.1 (No.619)

MUSEUM STUDIES

表紙：酒呑場遺跡出土品
縄文時代中期(5000～4000年前)
[山梨県立考古博物館]

Cover photo:Articles excavated from the Sakenomiba site
middle of the Jomon period (5000 - 4000 years old)
(Yamanashi Prefecture Archaeological Museum)



Contents

特集「第67回全国博物館大会特集」

The special issue "Report of the 67th annual conference of Japanese Association of Museums"

昨秋、ICOM 京都大会 2019 の開催に合わせて京都府立京都学・歴史館にて開催された第 67 回全国博物館大会は、「文化をつなぐミュージアム—伝統を未来へ—」という ICOM 大会と共通のテーマの下、ICOM 大会での議論を踏まえ、これからの博物館が真に社会からの要請に応え得る役割を果たしていくための道筋を考える上で、誠に大きな意義を持つ大会になった。

- | | | |
|------------------------|--|---|
| 04 | 年頭の所感 銭谷眞美
<i>Remarks at the beginning of New Year / ZENIYA Masami</i> | |
| 05 | 大会概要
<i>Summary of the 67th annual conference</i> | |
| 05 | 第67回全国博物館大会日本博物館協会会長 あいさつ 銭谷眞美
<i>Opening address by the president of Japanese Association of Museums / ZENIYA Masami</i> | |
| 06 | 第67回全国博物館大会決議
<i>The resolution of the 67th annual conference</i> | |
| 07 | 基調講演「新たな文化庁の挑戦」 今里譲
<i>Keynote speech "Challenge of the new Agency for Cultural Affairs" / IMASATO Yuzuru</i> | |
| 10 | 全国博物館フォーラム2019 半田昌之
<i>Forum 2019; Networks of museums and projects for ICOM Kyoto 2019 organized by Kyoto Prefecture and Kyoto City and the current situation of Japan Search project operated by National Diet Library / HANDA Masayuki</i> | |
| 16 | 特別講演1「シンガポールの博物館事情について」 チャン・ウィー・ニー
<i>Special lecture 1 "Circumstances of museums in Singapore" / Chang Hwee Nee</i> | |
| 18 | 特別講演2「未来に向けたミュージアムの役割」 長尾真
<i>Special lecture "Role of museums for the future" / MAKOTO Nagao</i> | |
| 20 | 記念鼎談「文化をつなぐミュージアム～ICOM京都大会の成果を未来へ～」
<i>Commemorative tripartite talk "Museums as cultural hubs; Making use of results of ICOM Kyoto 2019 for the future"</i> | |
| 26 | 令和元年度棚橋賞・博物館活動奨励賞選考経過及び講評 斎藤靖二
<i>Tanahashi Prize and Museum Activity Encouragement Prize selection committee report in 2019 / SAITO Yasuji</i> | |
| 27 | 棚橋賞受賞に寄せて 諸坂佐利
<i>At the receiving of the Tanahashi Prize / MOROSAKA Satoshi</i> | |
| 28 | 博物館活動奨励賞受賞に寄せて 林美帆 山下美晴 阿部敬
<i>At the receiving of the Museum Activity Encouragement Prize / HAYASHI Miho / YAMASHITA Miharuru / ABE Satoshi</i> | |
| Report | | |
| 30 | 海外博物館だより 美術関連資料の情報化—ゲッティ研究所での実務研修から 松山ひとみ
<i>The report from foreign museums / Processing archives at the Getty Research Institute / MATSUYAMA Hitomi</i> | |
| 33 | 支部情報 東海支部 山梨県立博物館の評価制度及び評価結果(第2期概略)について 河野彰
<i>The report recommended by Tokai Branch / The evaluation system of Yamanashi Prefectural Museum and its evaluation results (the second term outline) / KONO Akira</i> | |
| 36 | コレクション 重要文化財「酒呑場遺跡(さけのみばいせき)出土品保存修理事業」 高野玄明
<i>Collection / Preservation and repair of articles excavated from "the Sakenomiba site"(Important Cultural Property) / TAKANO Genmyo</i> | |
| Today's Museum 1月のもよおし | | |
| 37 | 博物館だより
<i>News</i> | 62 新入会員館園紹介(令和元年度)
<i>Introduction of new members in 2019 of Japanese Association of Museums</i> |
| 44 | 展覧会
<i>Schedule of exhibitions in January</i> | 64 編集後記
<i>Editor's postscripts</i> |
| 57 | 普及活動
<i>Educational activities</i> | |
| 60 | アンテナ
<i>Information</i> | |

大会概要

主 催：公益財団法人日本博物館協会

共 催：京都府立京都学・歴史館

後 援：文化庁

京都府

京都府教育委員会

京都市

京都市教育委員会

協 賛：株式会社インターネットイニシアティブ

株式会社乃村工藝社

株式会社丹青社

株式会社トータルメディア開発研究所

東京海上日動火災保険株式会社

会 場：京都府立京都学・歴史館 大ホール

◆9月5日（木）

・開会式

・表彰式：顕彰、棚橋賞、博物館活動奨励賞、大会決議起草委員選出

・基調講演「新たな文化庁の挑戦」

講師：今里 譲（文化庁次長）

・全国博物館フォーラム

講師：田中圭一（京都府文化スポーツ部副部長）

講師：春田 寛（京都市教育委員会生涯学習部長）

講師：中川紗央里（国立国会図書館電子情報部電子情報企画課連携協力係）

司会：半田昌之（日本博物館協会専務理事）

・全体会議（大会決議採択）

・一般公開プログラム

特別講演1「シンガポールの博物館事情」

講師：チャン・ウィー・ニー（シンガポール国家文物局長・ICOMシンガポール委員長）

特別講演2「未来に向けたミュージアム」

講師：長尾 真（京都大学名誉教授）

記念鼎談「文化をつなぐミュージアム～ICOM京都大会の成果を未来へ～」

講師：佐々木丞平（京都国立博物館長、ICOM京都大会2019組織委員長）

講師：宗田好史（京都府立大学副学長）

講師：神居文彰（平等院ミュージアム鳳翔館長）

・閉会

第67回全国博物館大会
日本博物館協会会長 あいさつ

本日、ここに第67回全国博物館大会が開催されるに当たりまして、主催者として一言ご挨拶を申し上げます。

ご来場の皆様にはご多用の中、またお暑い中、この歴史館にお集まりを賜り誠に有難うございます。現在、京都国際会館を主会場といたしまして、日本で初めてのICOM（国際博物館会議）京都大会2019が開催されております。国内外より4,500名を超える博物館関係者が集いまして、歴史的な会議が開かれております。日本からの参加者も1,800名を超えまして、100名以上の日本人研究者が、全体会議での講演や国際委員会等で日頃の成果を発表し、今後の日本の博物館の国際化にとりましても、記念すべき大会となっております。この京都大会2019の主催者の一員として誠に喜ばしく存じます。

今回の全国博物館大会を開催するにあたりまして、京都府・京都市の絶大なご協力を賜りましたことに、まずもって御礼申し上げます。

又、本日は、文部科学省より永岡桂子副大臣、文化庁より今里譲次長、京都府より西脇隆俊知事、京都市より門川大作市長、京都府教育委員会より橋本幸三教育長、京都市教育委員会より春田寛生涯学習部長にご臨席賜りました。誠に光栄に存じます。このあと永岡副大臣、西脇知事、門川市長にはご来賓としてご祝辞を賜ることとなっております。誠に光栄に感ずる次第でございます。

さて、今回の大会は、「文化をつなぐミュージアムー伝統を未来へ」というテーマの下に開催いたしております。これは、先程申し上げましたICOM京都大会と共通のテーマでございます。今回の大会は、今後の博物館の振興と博物館制度の在り方等を考える上で非常に重要な課題について、これからの博物館が、真に社会からの要請に応え得る役割を果たしていくための道筋を考える意味で、誠に大きな意義を持つものと考えております。

ちなみに、日本博物館協会の創設に尽力され、「日本の博物館の父」とも称される棚橋源太郎博士は、日本人で唯一人 ICOM の名誉会員になられた方ですが、先生の生誕百五十年に当たる本年に、

日本で ICOM 大会が開催されますことは、誠に意義深いことでございます。

本日は、このあとの基調講演で、昨年10月から、国の文化・博物館行政を総合的に所管することとなりました文化庁から、その組織の京都移転が近づいている時期でもあることも踏まえ、新たな博物館政策への取組をご紹介します。また、午後の博物館フォーラムでは、京都府・京都市および国立国会図書館より、博物館の連携や情報ネットワークに関するお話を伺うことになっております。その後、一般の方々にも会議を公開いたしまして、ICOMシンガポール委員長のチャン・ウィー・ニーさん、それから長尾真京都大学名誉教授によります特別講演をいただくことになっております。さらに、ICOM京都大会の成果を今後につなげるレガシーの創出について、佐々木丞平 ICOM 京都大会2019組織委員長、宗田好史京都府立大学副学長および神居文彰平等院ミュージアム鳳翔館長によります記念鼎談を行い、ICOM大会での成果を踏まえつつ、今後日本の博物館が取組むべき方向性についての議論を深めたいと思います。

大変盛りだくさんの内容でございますが、皆さまにはぜひ最後までお聴きいただければ幸いに存じる次第でございます。

終わりに、本大会開催にあたりましてご共催をいただきました京都府立京都学・歴史館、ご後援をいただきました文化庁、京都府、京都市、および本大会の開催に格別のご援助をいただきました協賛の企業の皆さま方に対しまして、深く感謝申し上げますとともに、本大会が多大な成果をあげられますことを祈念いたしまして、開会のご挨拶とさせていただきます。

本日は、どうぞよろしくお願い申し上げます。

誠に有難うございます。

令和元年9月5日
公益財団法人 日本博物館協会
会長 銭谷 眞美

基調講演「新たな文化庁の挑戦」

文化庁次長
今里 譲

全国博物館大会の基調講演という非常な大役を仰せつかり、本日のプログラムを拝見していると、このあと博物館フォーラムや、未来に向けたミュージアム、文化をつなぐミュージアム等—いろいろな形での博物館がどのような存在であるべきか、そのためには何をしていくのか、いろいろな議論をしていくのがこの大会であると認識している。そのような中での皮切りとして、ここでは文化庁の基本的な考えや課題そしてそれを解決するための取組みについて非常に限られた時間であるけれども述べさせていただきたい。

手元に配布した資料のタイトルは「新たな文化庁の挑戦」とあるが、ご承知のように文化庁は令和3（2021）年度中に京都に移転する。一部の地方部局ではなく、本庁が東京以外に移転となるのは中央官庁では初めてのことである。このような悠久の都である京都、そして関西文化圏の中で文化という正に日本の伝統を踏まえて生きていく。文化庁がこちらに移転することは非常に意義深いことであり、またその中で新たなパースペクティブで物事を考えていくことになるという意味では、まずは京都への移転が新たな文化庁の挑戦のひとつであると考えている。ここでは、全体として文化庁がこれからどのような役割を果たしていくのかを述べてみたい。

1 「文化芸術基本法の制定と文化庁の機能強化」について

文化芸術基本法とは、平成29（2017）年に文化芸術振興基本法というこれまでであった法律を改正してできた法律で、文化芸術の振興にとどまらず、観光、まちづくり、国際交流、福祉、教育、産業その他の各関連分野の施策を取り込み、そういった分野と連携してウィンウィンの関係でやっていこうということが文化芸術基本法ができた時に法律というレベルで明定された。

制度全体としても、文部科学大臣が「文化芸術推進基本計画」を作成する時には関係府省庁の施策を含む（7条・7条の2）、そのために関係府省庁で構成する政府の文化芸術推進会議等の体制を整備する（36条・37条）といった、広い意味での文化芸術の振興を考えていくために、役所の体制としても横断的なしくみを作ることとなった。

また、文部科学省設置法が改正、京都への全面的な



文化庁次長 今里譲氏

移転に向け新・文化庁にふさわしい組織改革・機能強化を図り、文化施策を総合的に推進することを踏まえ、(1)文化庁が中核となり、我が国の文化行政を総合的に推進。(2)芸術についての教育に関する事務を文部科学省本省から文化庁に移管。(3)博物館に関する事務をこれまでの文部科学省生涯学習政策局（総合教育政策局の前身）に代わり文化庁が一括して所管することになった。このように組織的に一連の事務の一元化を図ることで、今まであった文化部や文化財部をひとつにまとめ、横断的に風通し良く進めていくことになる（次頁図1）。

そのなかでも先行移転している地域文化創生本部は開所後にすでに様々な成果を挙げている。まず、京都府・京都市や関西広域連合などをはじめとする地元の自治体、経済団体、文化芸術関係団体等との交流が進み、文化庁の京都移転・地域文化創生本部に対する認知度の向上及び関係者・機関とのネットワーク構築が進んでいる。また、伝統文化体験の面的な広がりを生み出す土壌を整えたり、食文化に関するフォーラムを開催するなど、文化庁施策に地方視点・現場視点を反映した取組みを始めている。更に平成30（2018）年6月に成立した法律に基づき「障害者による文化芸術活動の推進に関する基本的な計画」を策定し、障害者等による文化芸術活動の充実に向けても取り組んでいる。研究者とのネットワークの構築・強化にも力を入れている。平成31（2019）年3月には、地域文化創生本部と大学コンソーシアム京都との間での連携協定を締結した。

新・文化庁の組織について

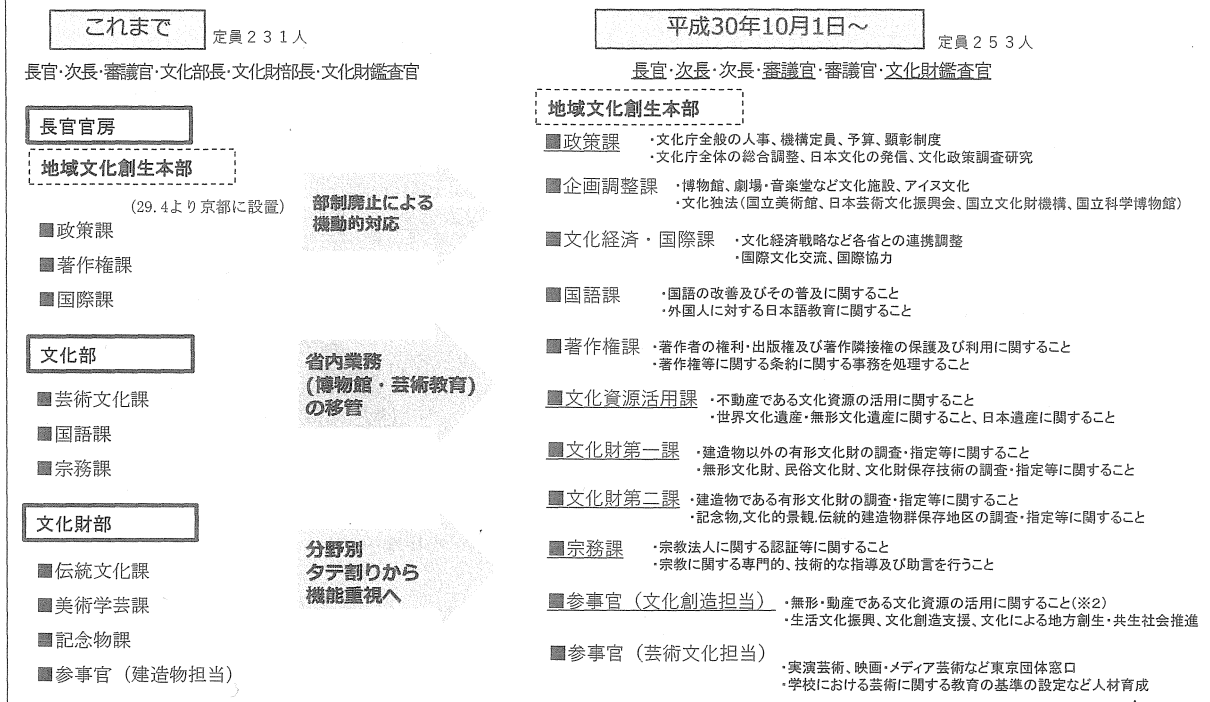


図1

- 全国の博物館は様々な活動を通じて教育・学術・文化の発展に寄与。
- ・館数 (H30) は、博物館: 1,287館で過去最多、博物館類似施設: 4,457館で前回調査より増。学芸員数も過去最多。
 - ・一館あたり入館者 (H29) は、博物館: 11万6,100人、博物館類似施設: 3万8,100人で、いずれも前回調査より増。

館数 (館)		学芸員 (人)		一館あたり入館者 (人)	
年度	博物館 類似施設	博物館	博物館 類似施設	年度	博物館 類似施設
H14	1,120	4,243	3,393	H13	104,372
17	1,196	4,418	3,827	16	101,721
20	1,248	4,527	3,990	19	102,799
23	1,262	4,485	4,396	22	101,711
27	1,256	4,434	4,738	26	107,437
30	1,287	4,457	5,035	29	116,096
			3,371		38,077

「平成30年度社会教育調査中間報告」から

図2

- 一方、博物館の更なる向上のため、一層取り組むべき課題あり。

テーマ	取組の進展	状況
財政面	資料購入予算がある館	42%
資料整理・調査研究	資料収集・保存を計画的に実施する館	43%
職員の確保・研修	一館当たり職員数	6.3人
	うち学芸系職員数	2.1人
	学芸系職員を他の研修に派遣・参加させている館	56%
情報化への対応	ウェブサイトから目録情報を公開している館	9%
施設設備	施設のリニューアルを必要とする館	68%
	障害者対応エレベータを持つ館	42%

「平成25年度日本の博物館総合調査報告書」から

- 来館者の利便性向上、特にインバウンド受入の対応 (開館時間の柔軟化、多言語化、キャッシュレス等) も一層の課題。

都道府県・指定都市立 の博物館 (154館)	夜間開館	17:00以降開館する館	38%
		18:00以降開館する館	18%
	多言語化	パンフレットを整備する館	51%
		解説板を整備する館	6%

(夜間開館は「週末のみ」の場合を含む)

「平成30年度文化庁調査」から

図3

2 「博物館施策の現状と今後の展望」について

(1) 現状

「平成30年度社会教育調査中間報告」によると博物館の館数・学芸員数は過去最多で1館当たりの入館者数も前回調査よりも増えている傾向にある(図2)。そのような中で資料購入の予算の不足、職員の不足、職員研修の問題等、博物館は多くの課題を抱えているが(図3)、その原因はリソースが足りないことに尽きよう。これらを充実させることによって博物館本来の機能を向上させ、魅力的な館になっていく—そのことが他の分野からの評価につながり、博物館のリソースを充実させることの必要性を示すという好循環—「エコシステム」を生み出していかなければならない。

(2) 期待される方向性

このような現状のもと、博物館はいかにあるべきかを以下に3つの柱を立てて整理した。

- 1) 子供たちや地域住民への学習機会の提供、収蔵品の収集・保存・調査等の着実な取組など、社会教育施設・文化施設としての役割を一層充実させる。これはトラディショナルな本来の博物館のあるべき姿である。
- 2) ストーリー性ある充実した展示により、多くの人々に、我が国・地域の多様な文化・歴史・風土への理解を促進、ひいてはインバウンド受入れにも貢献する。
- 3) 地域活性化・経済活性化・文化振興の拠点として、各地域の文化と経済の好循環創出にも寄与する。

(3) 今後の取組—魅力ある「博物館」づくりを可能とする支援

これらのことを前提として今後、文化庁は魅力ある「博物館」づくりを可能とする支援として、次のような取組を行っていく。

1) 「博物館政策の検討の場の設置」

博物館政策が文化庁の所管になったことを受けて、「博物館部会」を新設し、文化審議会で博物館の総合的な検討を開始、10年ぶりに博物館の本格的な論議に入る。同時にICOM京都大会での国際的な議論を踏まえ、平成20(2008)年来の博物館法改正に向けての課題を洗い出していく。

2) 「国立館での先進事例・好事例の創出とその横展開」

東京国立博物館「トーハク新時代プラン」(H31.2)、国立科学博物館「科博イノベーションプラン」(R1.7)に代表される改革の推進、「文化財活用センター」や「科学系博物館イノベーションセンター」による収蔵品の活用促進、「文化財防災サポートセンター」の新設など、ナショナルセンターとして全国の博物館を支援し

ていく。このような取組により博物館の魅力を向上させることで、来館者・収入の増加につなげ、それを基に更なるサービス等の充実を図るという好循環を生み出すことを目指す。

3) 「各地の博物館における活動支援の充実」

- ①「地域と共働する事業」に関する支援—博物館を中核とした文化クラスター推進事業：博物館を中核とした文化クラスターを形成し、地域の歴史、芸術、自然科学の様々な資源を新たな創造的活動や事業に結び付け、首長部局を中心とした地域の主体的・協働的な活動の付加価値を生み出す「文化政策」と「街づくり政策」を合わせて事業展開していく。
- ②「魅力的な展示・企画」に関する支援—「地域ゆかりの文化資産」地方展開促進事業：地方博物館における、国立博物館や三の丸尚蔵館等有する地域ゆかりの文化資産を活用した展示を支援するとともに、訪日外国人観光客にも分かりやすい多言語解説や体験型の展示等の取組を促進することにより、地方博物館の展示への満足度向上、地方への誘客・消費の拡大を促し、地域活性化の好循環の創出を図る。「日本博」の一層の活用が期待される。
- ③「見せるためのリソース(モノ・ヒト)」に関する支援—博物館を支えるのは人である。

専門職員の研修を充実(特に、海外における派遣の拡充)させると共に、重要文化財の美術工芸品等の収蔵品に関する修理・修復への支援も行っていく。

4) 「施設設備の改修・整備」に関する支援

地域の活性化、経済の活性化、文化振興の観点から、意欲ある博物館に対し、予算・税制・関係省庁との連携施策を通じた支援(新たな制度の創設の検討)を行うと共に、博物館で活用可能な他省庁の事業や税制優遇などの情報を一覧化・提供していく。また、文化遺産オンライン構想の推進としてジャパンサーチ等による博物館に関するデジタルアーカイブの内容を充実させると共に、更に登録美術品制度及び美術品補償制度等、美術館支援施策にも取り組んでいく。

以上、見てきたように、博物館は色々な形で担うべき役割を社会から大きく期待されている。それぞれ館により置かれている状況は違うが、文化振興はもちろんのこと、地域の振興や地域との協働等、各関連分野との取組を進めていただきたい。我々はそのために必要な情報発信をしつつ、予算や税制の面でも皆様の支援をしていく所存である。

(いまさと・ゆずる)

博物館研究 Vol.55 No.1 通巻619号 毎月1回25日発行

編集発行人：公益財団法人 日本博物館協会
〒110-0007 東京都台東区上野公園12-52 黒田記念館別館3階
TEL：03-5832-9108 FAX：03-5832-9109
郵便振替口座：00190-3-80123 無断転載禁
URL：http://www.j-muse.or.jp/ E-mail：webmaster@j-muse.or.jp
編集委員：斎藤靖二 小川義和 神庭信幸 斎木健一 高橋 修
錦織一臣 林 克彦 船越幹央 山本哲也 半田昌之
印刷：日本印刷株式会社 TEL：03-5911-8660

MUSEUM STUDIES Vol.55 No.1 2020

The monthly bulletin of Japanese Association of Museums
3F, Annex to Kuroda Memorial Hall, 12-52 Ueno-Park,
Taito-ku, Tokyo 110-0007, Japan
Copyright 1984 by Japanese Association of
Museums and individual Contributors.
All rights reserved.